

Perplexity PatentsのAI特許検索 – 調査レポート

1. Perplexity Patentsの概要と提供状況

Perplexity Patentsは、米スタートアップPerplexityが開発した「AI特許リサーチ・エージェント」である。特許調査は従来、複雑なキーワード検索やブール演算を駆使する必要があるが、一般向けの無料ツールは機能が限られ、専門的なデータベースは高額で習得にも時間が掛かっていた¹。Perplexity Patentsはこうした参入障壁を下げる目的で開発され、自然言語による質問に対して関連特許を提示し、文書をインラインビューアで閲覧できる。また会話型インターフェースを採用しており、追跡質問による深掘りや関連分野の提案が行える²。

サービスは2025年10月30日（日本時間）にベータ版として公開され、世界中で利用できる。β期間中は誰でも無料で利用でき、ProおよびMax利用者は追加の利用枠やモデル設定を受けられる³。記事によると、Perplexityは今後も無料版を維持しつつユーザーからのフィードバックを反映して機能を拡張し、将来的には有料プランで高度な検索クォータや構成オプションを提供する方針である⁴。

2. 自然言語検索と従来のキーワード検索の違い

Perplexity Patentsは自然言語理解と大規模言語モデルを活用し、ユーザーが「AIの語学学習に関する特許はあるか?」や「2024年以降の量子コンピューティングの主要特許は?」といった質問をそのまま入力できる⁵。従来のキーワード検索では「("AI" OR "machine learning") AND quantum AND computing」など複雑な構文を構成する必要があり、語句を1つ変えると結果が大きく変わる。一方、自然言語検索は質問の意図を理解して概念的に類似した文献を探すため、ユーザーは技術用語やブール演算に精通していなくても検索できる。

さらにPerplexity Patentsは同義語や関連概念を広く捉える。例えば、従来のツールで「fitness trackers」という語を用いて検索すると、その単語を含む特許しか表示されないが、Perplexity Patentsでは「activity bands」「step-counting watches」「health monitoring wearables」といった関連用語を含む特許も自動的に抽出する⁶⁷。後述するTech Buzzの記事も、こうしたセマンティック検索により一般の発明者や弁理士が何時間もかけて行っていた同義語の手作業調査を代替できると評価している⁸。

一般的なAI特許検索ツールに関する弁理士向け記事では、自然言語処理（NLP）が複雑なブール論理を不要にし、ユーザーが会話的な記述だけで目的の発明を検索できることが強調されている⁹。また、引用ネットワーク解析や文書間の類似度解析により、異なる語彙で表現された関連特許を発見できると説明されている¹⁰。Perplexity Patentsはこうした最新技術を取り込み、キーワード検索の限界を補完する。

3. エンジニア・研究者・特許実務家への利点と活用方法

Perplexity Patentsは特許調査を専門家以外にも開放し、エンジニア、研究者、特許弁理士や企業経営者など幅広いユーザーを対象としている。Perplexityのブログは、イノベーションは一つの箱に収まるものではなく、発明の前提となる知識がブログや動画、コードなど様々な形で存在することを指摘し、エンジニアや研究者が包括的に情報を把握できるようにしたいと述べている¹¹。研究者や技術者にとっては、関連する特許や学術論文、ソフトウェアリポジトリを統合的に検索できることが、研究開発の加速や技術動向の把握に役立つ。

特許実務家にとっては、従来の専門データベースでは見落としがちな概念的に近い先行技術を迅速に見つけることで、無効資料調査や新規性確認の効率が向上する。Tech Buzzの記事は、従来数時間を要していた初期的な先行技術調査が数分で終わると弁理士が評価していると紹介しつつ、AIの要約結果は法的手続きに用いる際には人による確認が必要であると注意喚起している¹²。このため、Perplexity Patentsは完全に弁理士を置き換えるものではなく、専門家がより高付加価値の業務に集中できるようサポートするツールと捉えられる。

事業計画や戦略を検討する経営者にとっても、競合の特許ポートフォリオや市場の技術トレンドを把握するための初期調査ツールとして有用である。スタートアップ支援メディアStartupHub.aiは、特許調査を専門家の領域から一般のイノベーターに開放することで、革新を加速しIPインテリジェンスの民主化に寄与すると評価している¹³¹⁴。

4. 学術論文や公開ソフトウェアリポジトリなど他情報源へのアクセスの重要性

Perplexity Patentsの特徴の一つは、特許文献以外の情報源も検索対象とする点である。Perplexityのブログは、革新的なアイデアは特許文献だけでなくブログや動画、コンピュータコードなどの形で出現するため、必要に応じて学術論文や公共ソフトウェアリポジトリなどを探索し、技術の全体像を示すと説明している¹¹。The Vergeの記事も、同ツールが学術論文や公開ソフトウェアリポジトリを含む非特許文献を検索し、先行技術を広く拾い上げることを紹介している⁷。

このクロスソース検索機能は、特許調査の網羅性を高め、技術の成熟度や研究動向を把握するのに役立つ。例えば、バイオテクノロジー分野では学術論文や産業レポートの情報が重要であり、AI検索ツールが論文や引用ネットワークを分析することで新薬開発に必要な先行技術を早期に発見できると論じられている¹⁵。Perplexity Patentsでも同様に、ソフトウェアリポジトリのコードや論文を引用して関連技術の実装例やオープンソースの利用状況を探るため、研究者や開発者にとって価値が高い。

5. 第三者レビュー・解説記事および他AI特許検索ツールとの比較

複数のメディアがPerplexity Patentsの登場を報じており、その機能や競合との比較が議論されている。

- **The Verge** – 同ツールがキーワードに依存せず、関連用語を自動で拡張することや、学術論文と公開ソフトウェアリポジトリを検索対象に含めて先行技術を発見する点を紹介し、ベータ版が無料で提供されていると報じている⁷¹⁶。
- **Axios** – Perplexity Patentsのβ版は無料で、プロ版向けの拡張機能を検討していること、正式な政府データベースを利用して信頼性の高い情報を提供していること、そして非特許文献も検索対象に含める点を強調している¹⁷。
- **Tech Buzz** – Perplexity Patentsが自然言語インタフェースとセマンティック検索により、従来の法務業界向けデータベースが抱えるキーワード検索の課題を解決し、概念のマッピングを自動で行うと評価している。記事は、学術論文やコードリポジトリを検索し、先行技術の調査を大幅に効率化する点や、ベータ版を無料で提供する戦略が法律テック市場への進出の一環だと分析している¹⁸¹⁹。
- **StartupHub.ai** – 新サービスにより特許検索が専門家以外にも開放され、複雑な検索式や高額なツールが不要になることで、イノベーションの民主化が進むと評価している²⁰。また、自然言語による質問とインラインビューアが利用者に分かりやすい体験を提供すると説明している²¹。
- **Rapacke Law Groupの記事** – AI特許検索ツール全般を対象に、自然言語処理が複雑なブール論理を不要にし、引用ネットワーク解析が異なる語彙で表現された関連特許を発見する能力を持つことを解説している²²。これはPerplexity Patentsが採用する技術と同様であり、従来のキーワード検索に対するAI検索の優位性を補足している。

これらの記事では、Perplexity PatentsがGoogle PatentsやThomson Reutersのような既存の特許データベースに対する競合となり得るが、現時点では専門的な法的分析を補完するツールとして位置付けられていると指摘されている。また特許調査の民主化を進める一方で、AI生成の要約結果は法的判断に使用する際に専門家による検証が必要であるとする慎重な見解もある¹²。

6. 特許調査分野への影響と将来の展望

Perplexity Patentsが提供する自然言語検索、概念マッピング、非特許文献の横断検索は、特許調査の効率とアクセス性を大幅に向上させる可能性がある。特許検索が一般のイノベーターに開放されることで、先行技術の早期発見や技術動向の迅速な把握が可能となり、重複開発を減らし新規性の高い研究開発を促進する。クロスソース検索により、特許明細書に記載される以前の学術的な研究やオープンソースプロジェクトも発見できるため、研究者やスタートアップ企業がより包括的な判断を下すことができる。

今後は、β版を通じて収集されたユーザーフィードバックが機能改善に反映され、プロフェッショナル向けの高度な分析機能やAPI連携が追加されると予想される。また、他社のAI特許検索ツールと競争することで、NLPや生成AIモデルの精度向上、マルチモーダル検索（図面や画像検索）などの研究が進む可能性がある。一方で、AIによる情報収集が増えるほど、情報源の信頼性やデータ収集時の著作権問題への配慮も重要となる。現在もPerplexityはコンテンツスクレイピングを巡り批判を受けており、透明性のあるデータ利用が社会的な信頼を左右するだろう。

全体として、Perplexity Patentsは特許調査の裾野を広げ、先行技術調査の初期段階を迅速化するツールとして有望である。今後は専門的な法的分析を補完する形で、研究開発の初期検討や技術動向の探索に活用されることが期待される。

1 2 3 5 6 11 Introducing Perplexity Patents: AI-Powered Patent Search for Everyone

<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-patents>

4 17 Perplexity launches AI patent directory

<https://www.axios.com/2025/10/30/perplexity-ai-patent>

7 16 Perplexity's new AI tool aims to simplify patent research | The Verge

<https://www.theverge.com/news/811340/perplexity-ai-patent-research-tool>

8 12 18 19 Perplexity Launches AI Patent Tool to Transform Legal Research | The Tech Buzz

<https://www.techbuzz.ai/articles/perplexity-launches-ai-patent-tool-to-transform-legal-research>

9 10 15 22 The Best Artificial Intelligence Patent Search Tools: Speed, Accuracy, and the Attorney Advantage - The Rapacke Law Group

<https://arapackelaw.com/patents/artificial-intelligence-patent-search/>

13 14 20 21 Perplexity's AI Patent Search Aims to Demystify IP for Everyone

<https://www.startuphub.ai/ai-news/startup-news/2025/perplexitys-ai-patent-search-aims-to-demystify-ip-for-everyone/>